

■平成29年度 第3回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 平成29年度 第3回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 平成29年11月27日(月) 10時05分から12時05分

[開催場所] 大和市文化創造拠点シリウス 6階
大和市生涯学習センター 601講習室

[出席委員] 11名(欠席:1名)

[出席]: 饗庭 伸/黒石 いずみ/杉崎 和久/菅 孝能/河村 奨/江村 郁子/仲村 邦弘/
星野 澄佳/山田 俊明/須賀 良二/宇津木 朋子

[欠席]: 松本 久美

[事務局] 7名(街づくり推進課長、街づくり推進担当3名、大和駅周辺市街地整備支援担当3名)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

I. 会議次第

1. 開会

2. 報告

大和駅東側第4地区第一種市街地再開発事業の都市再生整備計画の事後評価について(原案説明)

3. 議題

(1) 平成29年度 第20回 大和市街づくり賞について

(2) 今後の大和市の街づくりについて

4. その他

5. 閉会

II. 内容

1. 開会

2. 報告

大和駅東側第4地区第1種市街地再開発事業の都市再生整備計画の事後評価について(原案説明)

質疑応答(○…委員 ▼…市)

▼(大和駅東側第4地区第1種市街地再開発事業の都市再生整備計画の事後評価について原案説明を行った。)

○評価原案の指標3プロムナード歩行者数の数値についてはどのように算出したのか。また、この指標に関するプロムナードの従前・従後の写真について、夏は暑いので人が少なかったりすることも考えられるので、事業終了後の写真との比較対象としてよいものかと疑問がある。

▼指標の図書貸し出し冊数については、市内5館の図書館の総貸出冊数を人口で割ったものである。実は、数値1に相当する分は、23万～24万冊であり、1増やすというのはかなりのことである。今回目標値には若干足りなかったが、このことから考えると数値を4.60から5.45に引き上げたことについては、一定の評価ができると思っている。

文化施設来場者数は、旧学習センター及びホールの総利用者数、新しい生涯学習センターと芸術文化ホールの利用者数を積み上げたものである。実数で算出しており、予約による有料の利用者数だけでなく、無料スペースの利用者数についても、1日に何回かカウントをし、その人数も算入している。これらは平成28年度の数字であるが、シリウスは11月オープンであり、丸1年稼働していないため、11月からの5ヶ月の数字に対して12/5で按分している。

プロムナード歩行者数は実測であり、職員が計測した。計測は、7時から19時の12時間、プロムナードと東西の駅前広場で行った。これは、毎年夏に総合計画の指標で計測するため、基本的には夏ベースの数値となる。同じ8月で組むと、まだシリウスがオープンしていないため、今回の数値については12月に計測したものである。平成29年度については夏場に計測を行っているが、その数値はさらに増えている。また、文化活動が盛んに行われていると感じている市民の割合は、総合計画を司る部署で、「やまとeモニター」によりアンケートをとった結果である。

○文化施設来場者や図書の貸し出し者の年齢や性別はわかるか。

▼そちらの資料は現在手元にない。

○承知した。

○先ほどの質問の二点目、プロムナードの歩行者数の比較写真について伺いたい。季節の良い11月の写真と夏の暑い時期である8月の写真は、比較対象になるのか。

▼今年の夏に一回計測しているので、その時の写真があれば次回お示しさせていただきたい。

○ご説明いただいた内容で、どのような体系でこの評価がなされているのかが分かった。要綱によってこの評価がなされていると伺ったが、その要綱に記された評価方法を全て含んでいるのだと思う。さらに、街づくりということで、大和市独自に評価方法を作ったり、それが含まれたりしていることはあるか。それとも、要綱に示された内容だけを評価しなさいということなのか。例えば、最後の街づくり推進会議を評価機関としているものは独自のものなのか。

▼基本的には、すべて様式は決まっている。その様式に基づいた評価については、すべて網羅しているが、内容については基本的には各自治体で決めて良いこととなっている。中身については、我々が独自に分析し評価をしている。今後の大和駅周辺の街づくりについての箇所は、まさに次回ご審議いただきたい事項と考えており、我々としてはこの部分が、様式の有無にかかわらず一番ご議論いただきたい部分である。したがって、様式としてはすべて網羅をしているが、それ以外の大和駅周辺の方向性や今後の在り方について、さらに踏み込んでご議論いただければと思っている。

○図書館の利用者や貸し出し冊数は、新規の登録者だけを把握されているのか。商店街周辺の回遊性の話があったが、商店街の方々からは何かご意見を伺ったりはするのか。

▼ご質問のうち、後段については、商店街の方のご意見はまだいただけていない。今のところ予定にはないが、今後の街づくりの参考とするために、商業部局を通して今後意見の方は伺いたいと思っている。

前段の図書館の利用者登録数に関しては、実は平成27年度～平成28年度で図書館が引っ越ししてしまった関係で、その間利用のなかった方を削除していたらしい。そのため、どのくらい新規の登録者数があったのかは拾えていない。ただ、平成28年11月にオープンしてから今までの登録者数は分かるので、それを次回お示しできればしたい。

3. 議題

(1) 平成29年度 第20回 大和市街づくり賞について

質疑応答 (○…委員 ▼…市)

▼(平成29年度第20回大和市街づくり賞と、それに関連する啓発事業について事務局から説明を行った。)

▼前回の推進会議では、街づくり賞に関して貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。ご意見を受けて、周知先を大幅に増やし、結果として資料1の通り、20件ほどのご応募があった。

これからご説明に入る前に、前提として、前回いただいたご意見の反映状況について、選考から表彰までの進め方に関して、4点ほどご説明したい。

まず、①応募締め切りから受賞事例決定までの応募関係者への配慮として、選考に応募関係者が参加することは、関係者の日程調整や、プレゼンテーション等の負担を考慮すると実現が難しかった。そこで、後ほど詳しく説明するが、応募関係者へは表彰式までの今後のスケジュールをご説明し、市役所1階ロビーで展示を行う等の対応を行う。

次に②表彰式への参加者数の増加について、今回は、街づくり学校のワークショップと街づくりサポーターの集いのワークショップの発表を、街づくり賞の表彰式のプログラムに組み込むこと、また、一般市民の方へもポスター等で表彰式を周知することで、広く参加を求めたい。

そして③応募関係者以外にも広く街づくり賞の存在を認識していただくために、街づくり学校と街づくりサポーターの集いの最終回を街づくり賞表彰式と重ねること、本庁舎ロビーでの展示を通して、広く市民の目に触れる機会を設ける予定である。

最後に④記念品について、今年度は予算の都合上、大幅な増額等はできないが、次回以降の参考とさせていただきます。

○街づくりの応募事例の展示は非常に良いことだと思うのだが、市役所は12月29日から1月3日は閉庁しているため、実質6日くらいしか展示できる日がないと思うので、もう少し前後の日にもちで展示できる日がないかを探ると良い。ただ、1階のロビーも色々やっているもので、場所を押さえるのが困難であればそれは仕方ないと思う。

もう一つは、街づくりサポーターを集めて街づくり学校に参加してもらうということは、街づくり学校専修コースを受講してもらうという意味か。

▼展示については、12月29日から1月3日は閉庁期間であるため、実質7日間になる。ロビーはそ

それぞれの部署で押さえている中で、使用できる範囲を押さえたが、まだ調整が可能な範囲で、市役所以外でも展示できるところがあれば調整していきたい。

街づくり学校への街づくりサポーターの参加については、基本的には、日程にご都合のつく方に、サポーターの方の視点での街づくりイベントを考えるものであるため、テーマ自体は専修コースの内容と同じではないが、サポーターの方であるので、街づくり学校や、やまと・ブランド・発見などの啓発事業をよくご存じということで、今までの啓発委事業の課題を説明し、昨年杉崎先生に講義いただいた専修コースのように、街づくり賞表彰式での発表を前提として、テンプレートを作成した模造紙を用いてワークショップでまとめてもらう。4日間で1日作業日を設けているが、街づくり学校の実施前に、1度街づくりサポーターの集いを開催し、その中でご参加いただける方がいるかをお聞きし、あまり日程が合わなければ、街づくり学校とは別途開催することもできる。ただ、資料や会場などの面で、できれば、街づくり学校と同時に開催できれば、事務局としては非常にありがたい。

○街づくりサポーターと専修コースの参加者は、違うグループで作業を進めるということか。

▼そうである。

○では、街づくりサポーターの集いで、サポーターにはぜひ参加していただきたいと、日程を含めてお伝えしたほうが良い。最低でも5、6人は来ていただかないと、街づくりサポーターでグループを作って作業ができない。

▼そのように周知するよう準備していきたいと考えている。

○今年度は無理かもしれないが、今後、街づくり賞の選考の場に、街づくりサポーターなど街づくりに意識のある方々が参加できるイベントにした方が相乗効果を生むことができると思う。例えばシリウスを活用するとか、具体性を持たせるように活動していくとより良いかもしれない。

▼同様な意見を前回河村委員からもいただいたが、街づくり賞の趣旨自体を正確にご理解いただけないケースなどもあり、今回は様々な調整上実現が困難であった。そこで今回は、サポーターの方々にもご協力いただきながら進行していく方式をとらせていただこうと思っている。

○展示の際に、街づくり賞の応募事例箇所などを、地図に落として配ると良いかもしれない。それを活用して、散歩をする方もいると思う。

○商店街や写真館を巻き込むのも面白いかもしれない。

○応募してくださった方の作品などを、今までは市の方が写真を撮っていたと思うが、それでは魅力が伝わりにくい。受賞事例などを、もっとプロのカメラマンなど、写真の知識がある人に撮っていただくことはできないのか。

○応募者の写真も、もっとカッコよく撮ると良いかもしれない。

▼応募者がすでに写真を撮ってくださっているものもあり、良いものがある場合はそれを使用することとなると思う。また、活動の事例については、実際に活動をしているところの写真をいただく際には、撮影していただいた写真を使用することとなる。

(2) 第4回街づくり推進会議での街づくり賞の選考について

質疑応答 (○…委員 ▼…市)

▼ (第4回街づくり推進会議での街づくり賞の選考について、事務局から説明をした。)

○従前と変わらないやり方である。

○選考は一日の作業でよろしいか。

▼メールにて9時から17時で予定を入れさせていただいているが、平成25年度に、街づくり賞を開催した際には、9時半からの開催で、午前中にプレゼンテーションを行い、そのあと車2台に分かれて視察をした後で選考をしていただいている。

大和駅の再開発事業の事後評価もこの日に行く必要がある。タイトなスケジュールで申し訳ない。今のところ2月5日、6日が、9名ご参加ということで一番人数が多く、誠に勝手ながら場所的には6日の方が大きな会場が確保できるので、6日で開催したいと考えている。

○街づくり賞にご応募いただいた20件を全体的に見てみると活動だったり景観だったり様々だが、活動ならこのようなポイントで評価をしたり、景観だったらこういうポイントで評価をした方が良いといったガイドのようなものはあるのか。それとも個々の思い思いの視点で評価して良いのか。

▼平成23年度から25年度の街づくり賞では、テーマを設けての開催としていた。当時はテーマを設けることでテーマに沿った表彰をしようということだったが、今回はあえてテーマを設定せずに、将来的に街づくりの役に立ちそうな、芽になるものを表彰するために、広く募集する意味で、テーマを設けずに募集させていただいた。したがって、活動だからこのような基準とか事例だからこのような基準というガイドのようなものはないので、委員の方が受けられた印象や、感覚でご判断いただければよい。あくまでも委員の方の順位を集計した結果で上位5つ程度を受賞としたい。点数的に同点の事例も出てくると思うが、それはあえてふるいにかけるものでもないので、受賞事例が増えることもあると思う。基本的には委員の皆様の印象で、良いなと思ったものにご投票いただきたい。

○あまり皆が、ばらばらのことを考えても良くないので、次の議題である大和市の街づくりが今後どうなるのかを考えながら、ご自身の経験を加味して評価してもらいたい。

▼受賞事例には、講評もまとめて発表するので、コメント欄になぜその事例を選んだのかという視点についても記載いただきたい。

○やはり大和市の今後を考えて評価をするのは重要だ。

○評価のポイントのつけ方は、1番が5点で2番が4点で、という点数化が、その母数に対して評価が正しいものであるのかが分からない。細かいところも、やはりある程度指標が合えば、これが順位的に上でとか、もっと多くの人を拾ってあげた方が良いとか、そういう考えもあるので、それは皆さんの主観で良くて、できるだけ広げて表彰するために、細かくは決めなくて良いとかそういう大事なポイントが確認されると良いと思った。細かく点数をつけるならつけるとか、多くの受賞事例を増やすなら主観でといった具合である。

○資料4の(4)と(5)の間に、集計結果を見てから皆で議論する時間が必要だということだ。点数を見て、それぞれをもう一回見比べて議論した方がまとまる。(4)と(5)の間で機械的にやるのではなく、議論していきたい。

▼実際には予算の都合上、無制限に受賞者を広げることは難しい。

○今までにない新しい取り組みなど、新規性を評価するのか。これまでに似た事例があった場合にはちょっと評価を下げるのか、事例がなければ評価を上げるのか、

○それは事例を見てみないと感触としてわからないものだが、事例を見る限り一生懸命出してもらった印象を受ける。期待できるものが多いと思う。

- 街づくりでは、隣の家との街並みを合わせることで、評価が大きくなったりする。必ずしも新規性が評価されるわけではない。
- 今までの街づくり賞で評価されている場合は、評価されないことはあるか。
- 先進事例は真似してほしいものであるから、そうではない。
- 出ている事例を見る限り、今まで表彰されているところはないと思う。この(4)と(5)の間の議論でかなり様々な意見が出ると思うので、良いと思ったら推薦されると良いと思う。
- 順位をつけるのは難しくて、持ち点を1点から5点まで順につけたときに、3点が多いものでも良いのか。そのような点数の付け方はいかなるものか。皆一生懸命されているので、順位をつけるのが難しい。
- この作品に対しては、このくらいの点数といった基準があればよいが。
- ▼それは、実際に各委員が5票持っていて、順位はつけなくても自分の選んだ5つがあって、その票数が多いものが順位になるという集計方法である。
- だが、結果的に自分の中では順位がついてしまう。格差は出るが、思いが表れやすいやり方にするのか。また、今回はハードとソフトとに分けていないが、それぞれから何点選んだほうが良いなどの基準はあるのか。
- ▼全部をまとめて評価いただきたい。
- それぞれの評価方法について、数学的にあまり変わらない気もする。
- 絶対評価で全事例に対して5段階評価をする方法もあり、それなら順位をつけなくても良い。ただ、満遍なく評価されているものと、局所的に個性が評価されているものが出てくるなど、点数の割り振り方に差が出るかもしれないという問題が出てくる可能性もあると思う。
- (4)と(5)の間で、議論があるので、そのようなことも検討するようになると思う。
- 各委員が何点持つかも議論しなければならない。
- 現在①持ち点式、②配分式、③5段階評価という3種類の評価方法が挙げられたが、評価の方式については、会長と事務局に一任ということで承知した。

(3) 今後の大和市の街づくりについて
 質疑応答 (○…委員 ▼…市)

- 今後の大和市の街づくりについてである。前回議論ができなかったが、次回審査をするにあたって、これを見ながら評価したほうが良いと思う。一回議論してまとめていただいたものが今日配っていただいた資料だと思う。今日それを共有してから次回に臨んだ方が良い。
- ▼(前回の推進会議で、今後の大和市の街づくりについて議論いただいた内容のまとめについて事務局から説明した)
- ▼今回も時間がなく、次回の推進会議でも時間が取れないため、何か意見があれば今後メーリングリス

トを作成し、意見交換を行いたいと思うが良いか。

○承知した。

▼次回は2月6日（火）に開催する。時間は調整した上で改めてご連絡させていただく。

以上